

練馬区議会議員  
かっこ  
やない 克子

保健福祉委員会  
医療・高齢者等特別委員会



練馬区議会議員  
やまさき  
山崎 まりも

文教児童青少年委員会  
みどり・環境等特別委員会



# 生活者ネットワーク 区議会ニュース

2025年 第一回定例会(2月6日~3月14日) 報告号



## 子ども・若者を大切に、希望が持てる練馬に

2025年度の当初予算案の約7割を福祉・教育・こども分野が占めていて、若者や女性の住まいに関する支援や高齢、障害福祉の施策充実など、これまで私たちが要望してきた複数の項目も前進していると思います。その一方で、区立学校を統廃合する適正配置計画や増え続ける不登校児童生徒の対応は、子どもの権利の視点が欠けていると言わざるを得ません。

### 一般質問9項目

#### Q1 区長の基本姿勢について

当初76億円を見込んだ区立美術館再整備費用が約1.4倍の109億円になる見込み。さらに上昇することは明らか。一旦立ち止まって建替時期やデザイン等を再検討すべき。

#### Q2 協同労働について

新しい働き方である協同労働や労働者協同組合について、積極的な周知、啓発を。

#### Q3 生活困窮者支援について

区内の困窮者支援団体と意見交換などの協議の場を持ち、連携して対応を。

#### Q4 化学物質過敏症の周知について

啓発ポスターやリーフレットを全区立施設で活用し周知すべき。SNSも活用を。

#### Q5 介護事業者支援について

2024年は全国で172件の介護事業者が倒産。訪問介護の人材不足は深刻。区内事業者のニーズを把握し対策を講じるべき。



一般質問を行うやない克子。  
第一回定例会2月12日

#### Q6 プラスチックの資源化について

徹底した資源化とともにプラスチック製品を「買わない」「使わない」消費者の選択が重要であることも積極的にアピールすべき。

#### Q7 学校のあり方について

不登校児童生徒は増え続けている。区の不登校対策である校内別室や適応指導教室だけでは根本的な解決につながらない。学校のあり方を考え直すべき。

#### Q8 区立学校の適正配置について

適正配置計画は人数や学級数ありきではなく、子どもたちが「行きたい」と思える学びがある学校を作るという視点で考えるべき。

#### Q9 大泉第二中学校と道路計画について

2本の都市計画道路が学校の敷地を4分割する。これで教育環境を保全したといえるのか。

# 生活者の視点で区財政をチェック

## どうなる?中学校の部活動 「休日部活動の地域移行」が動き出す

先生の代わりに部活動の顧問として、土日も活動できる「部活動指導員」と顧問をサポートする「外部指導員」の予算が大幅に増額されました。地域の方等にも部活動に関わってもらい、**区は将来的に、「部活動を学校から切り離していく」**方向です。また、**学校を会場にしたSSC※による活動が**、期間を決めて試行されます。学区を問わず、希望する中学生が参加できる活動です(費用を区が一部負担)。区は「若者世代以降の活動が学校生活の終了によって途切れてしまいがちなところを、地域移行していくことで、生涯にわたってスポーツや文化芸術を楽しめるまちを目指す」とのこと。

**生徒が「やってみようかな」と思ったら誰もが取り組めるのが部活動のよいところの一つ**です。学校の部活動だからこそ「よかったこと」はどう残されていくのか。今後も注視していきます。

※総合型地域スポーツクラブ

## 地域包括支援センターの 専門職配置基準を緩和する条例改正に反対

地域包括支援センターには、社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員(以下、主任ケアマネ)の法定三職種を最低一人ずつ**常勤職員**として配置する原則がありました。ところが、専門職のうち特に主任ケアマネの確保が厳しいため、国は介護保険法を改正して柔軟な職員配置を可能にしたのです。

病気休暇や妊娠出産・育児休業、年度途中の退職などの理由で欠員が生じた場合、複数の非常勤職員(専門職)を配置し、欠員を解消する「常勤換算方法」が可能になります。地域包括支援センターは、3つの専門職が連携し、それぞれ専門性を活かしながらチームで高齢者の生活を支える役割を果たす総合機関です。区は、あくまでも「一時的な対応」という考えですが、今のところ主任ケアマネが増える見込みはありません。

多くの介護従事者が主任ケアマネになりたいと思えるような処遇改善が必要と考えます。

## 小中学校全校を含む区立施設134か所 「実質」再エネ100%導入だが...

「実質再生可能エネルギー」の電源は、**火力、原子力発電も含まれています**。これを「再生可能エネルギー」と呼ぶために、使用する電気の量に応じた「非化石証書」という証書を電気と一緒に購入しているのです。

東京電力福島第一原発の事故から14年経った今も不安を抱えながら生活している人々は多く、私たちはこの地震の多い日本で、原発の利用を容認ことはできません。環境省は原発を利用せず、再エネだけでも日本の消費電力の2倍を賄えるポテンシャルがあると、試算しています。

**環境問題においては特に、「私たちはどんなふうに作られたものを選んでいくのか」が重要**です。区は原発や化石燃料に頼らない**真の再生可能エネルギーを選ぶ姿勢を見せていくべき**です。

## マンホールトイレの予算が計上。 使い道は「設置」だけじゃない?

皆さんの関心が高まっている、**災害時のトイレ問題**。まずは、**大きな災害時は「トイレを含む、排水は流さない」**が基本です。排水管が破損していると、特に中高層住宅の場合は下の階に汚水が漏れ、住めなくなってしまうからです。大きな地震の後は簡易トイレを使用し、区の回収が始まるまで自宅に排泄物を保管しておきます。さらに、備えの選択肢の一つとして「マンホールトイレ」の設置の検討があります。

しかし、**実はマンホールトイレの設置場所を選ぶのは意外と困難**で、下水道管の位置や安全面など様々な点を考慮する必要があります。次年度、専門家への相談(だけでもOK)や、マンホールを掘ること、給水栓の設置などに使える「マンション防災対策経費」が予算化されました。まずは町会等で災害時のトイレ対策を話題にすることから始めませんか。

●information● 2025年第二回定例区議会 6月2日(月)~24日(火)

区議会ニュース第一回定例会報告号 2025年3月31日 発行 やない克子 山崎まりも  
〒176-0001 練馬区練馬1-15-1-302 練馬・生活者ネットワーク  
TEL:03-3993-4899 FAX:03-5999-4632  
webページ <https://nerima-seikatsusya.net/>  
mail [net-gikai@jcom.home.ne.jp](mailto:net-gikai@jcom.home.ne.jp) ご意見・ご質問をお寄せください。



▲ご意見はこちら

生活者ネットワークは、地域の課題や生活者の声を集めて、区政につなげています。